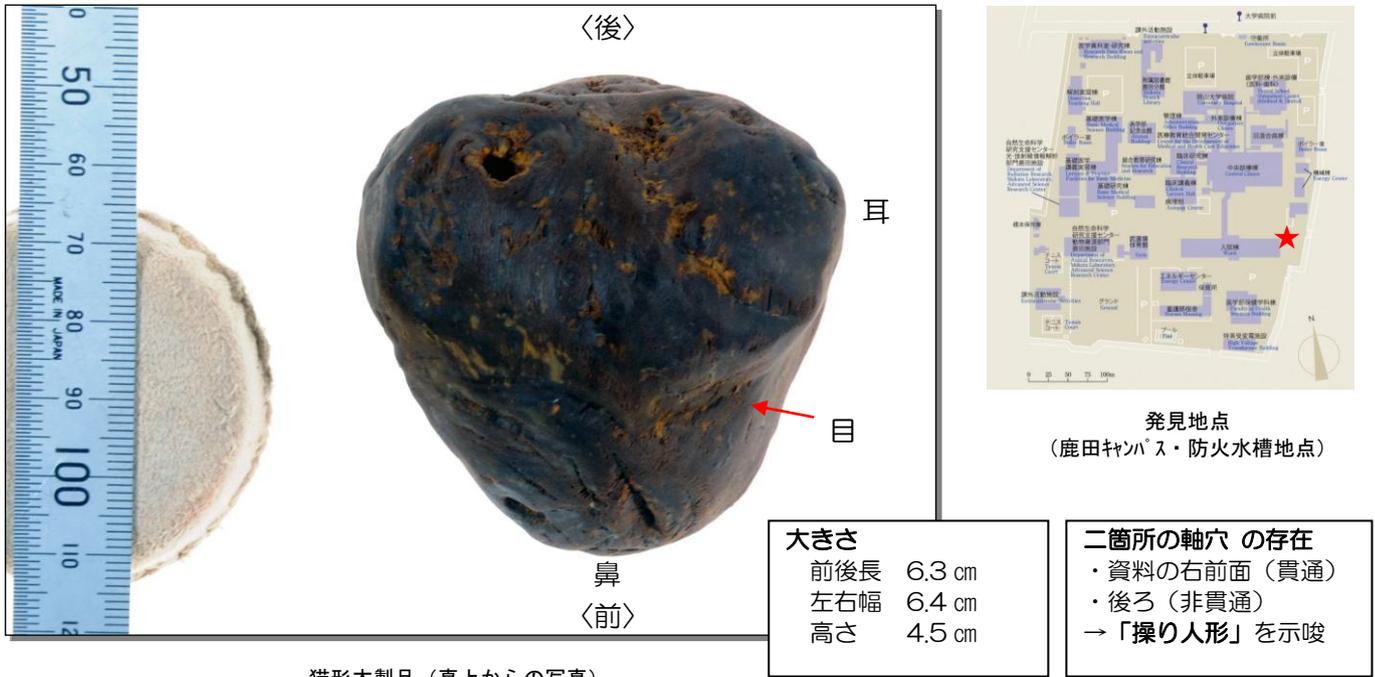


最古の猫形の操り人形、鹿田遺跡で発見

岡山大学埋蔵文化財調査研究センター



鹿田遺跡における

猫形木製品発見の意義—芸能史と地域史—

- ◎ 11世紀中頃（平安時代後半）の井戸の中から出土
- ◎ 全国2例目の猫形木製品。
類例：鎌倉市円覚寺門前遺跡「山猫形木製品」（14世紀後半）。
- ◎ 動物形の操り人形として**最古の例**。
これまで14世紀前半の鹿田遺跡出土の猿形木製品が最古（右写真）。
本資料はそれを約300年遡る事例
- ◎ 猫形木製品は、古代・中世の芸能民である**傀儡（くぐつ）**が使用した操り人形の可能性が高い。
- ◎ 鹿田荘（しかたのしょう）の性格を考える上でも重要



猿形木製品（鹿田遺跡）

傀儡（くぐつ）とは

- ◎ 主として狩猟生活を営みながら、幻術的な芸能をおこなうもの
- ◎ 文献では8世紀末から存在が確認
- ◎ 交通の要衝（港津や街道宿場）を拠点に移動生活をおくる